

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	
Title(English)	Integrated School-Community Functions -A Planning Framework for Rural Schools in Nepal-
著者(和文)	アチャーリヤ シタル バブ
Author(English)	Shital Babu Acharya
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第11625号, 授与年月日:2020年9月25日, 学位の種別:課程博士, 審査員:斎尾 直子,大佛 俊泰,塚本 由晴,那須 聖,阿部 直也
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第11625号, Conferred date:2020/9/25, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名		Acharya Shital Babu	
		氏名	職名		氏名	職名
論文審査 審査員	主査	斎尾 直子	准教授	審査員	阿部 直也	准教授
	審査員	大佛 俊泰	教授			
		塚本 由晴	教授			
		那須 聖	准教授			

論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は、“Integrated School-Community Functions - A Planning Framework for Rural Schools in Nepal -” と題し、以下の6章から構成されている。

第1章“Introduction”では、公立学校（小中学校・高校）において、地域住民が利用する集会機能や行政サポート機能等の公共的な施設と複合化している事例が諸外国で見られること、ネパールをはじめとする開発途上国では物理的な施設整備や学校運営等、様々な問題に直面している一方で、ネパール農村地域における公立学校では、集会機能、日用品商店、診療所、寺院等の地域住民の身近な機能が複合化しており地域コミュニティの拠点として機能していること等の研究の背景が述べられている。このような背景を基に、諸外国を含めた既往文献の整理をおこない、ネパール農村地域の公立学校45校の調査・分析を通して、その実態と課題を明らかにし、学校と地域社会の機能複合化に関して効果的なPlanning Frameworkを提示するという本研究の目的と意義を述べている。

第2章“Characteristics of Community Funding in Nepal”では、“Funding”に着目し、学校施設整備と運営のしくみの実態を調査し分析をおこなっている。ネパールにおけるCommunity School制度を積極的に活用し、地域社会と積極的に協働している学校が学習環境を充実させることに成功し、社会的、文化的、地域社会サービス、イベントや活動のための複合化した空間を整備している実態や、地域ごとの特性と格差等の問題点を明らかにしている。

第3章“Integration of School-Community Functions and Community Involvement in Administration”では、“Stakeholder”に着目し、ネパールの地方分権化を背景とした学校を運営する組織SMC: School Management Committee（学校運営協議会）の仕組みと役割を調査し、実際の学校空間構成や配置と適応させて分析をおこなっている。各学校の空間構成の特徴と地域拠点性、および学校運営への住民の参加の特徴、その課題等を明らかにしている。

第4章“Stages of Development of Schools and their Planning Priorities in Relation to the Diversity of the School Districts”では、“Place”に着目し、各校の現地調査と学校運営協議会（SMC）が策定している学校改善計画資料（SIP: School Improvement Plan）を用い、学習環境に直接関わる

校舎とグラウンド、伝統的なコミュニティスペース（Chautara）と寺院等の関係性について分析をおこなっている。建物としては最低限の設備の普通教室のみを保持する学校も少なくない状況の中で、地域特性に適応した学習環境整備等の課題を明らかにしている。

第5章“Discussion”では、2,3,4章を踏まえ、学習環境・複合機能・地域の学校へのニーズの関係性、Funding・Stakeholder・Placeごとの計画要件を整理し、ネパールの農村地域における公立学校のPlanning Framework、ネパールという国の地域性にとどまらない一般の公立学校におけるPlanning Frameworkを提示している。特に、地域コミュニティの圏域と学区がほぼ一致している農村地域では複合化の地域拠点性がより高いこと、学校が地域コミュニティ拠点として持続するために伝統的な空間の保全が重要であることを述べている。

第6章“Conclusions”では、各章での結果をまとめ、本論文で得られた知見を総括している。

以上を要するに、本論文は、ネパールの農村地域における公立学校と地域社会との複合化に関する調査と分析を通して、その学校空間と地域拠点性の実態、学校運営への地域住民の参加の特徴と課題を明らかにし、今後の公立学校整備のためのPlanning Frameworkを提示しており、建築学上貢献するところが大きい。よって、博士（工学）の学位論文として十分価値のあるものと認められる。